

■インタビュー ありだ地域本部AQ選果場 場長 平野優作 様

Q1. 選果場での場長の仕事内容や、一日の仕事の流れについて教えてください。

場長は基本的にはみかんの販売を担当しておりまして、市場の担当者と連絡を取り合いながら、日々の集荷量からいついつに何ケースきますよというようなところの計画を立てたり、また、長期的にはその時期時期に、10 月だったら極早生みかん、11 月から早生みかんの品種が違いますが、次また 11 月になればこういう生育状況ですよという中での長期的な販売計画を立てたりしながら、市場との連絡をとって有利販売に努めているというところですね。

Q2. JA に就職を決めたきっかけについて教えてください。

まず、地元就職したかったというのが第 1 ありまして、また家が、実家が農家をしているというところで、そこで JA を選んだということですね。またこう田舎といいますか、の中では JA がしっかりした企業であるというイメージもありましたので、就職したということですね。

Q3. 選果場で果物を選定する際のポイントがありますか。 また、スーパーなどで果物を買う際のポイントなどあれば教えてください。

みかんの見分け方と言いますと、やっぱりオレンジが色が濃いものを選んでいただくと、また、皮がツブツブが見えると思うんですが、きめ細やかなもののおいしい基準かなというところですね。熟すサインとしてですね、ヘタがちょっと黄色くなっているが、それは木になっている期間が長い、熟しているという証拠でありますので、青々してるよりかはちょっと黄色がかったものの方が熟している証拠というところですね。まだ大きいよりかは小さめのみかんの方がおいしいという見分け方はあります。

Q4. 最近の地球温暖化の影響などは様々な分野で影響を与えていますが、果物などについても影響はありますか？また、どのような影響が出ていますか？

やっぱり労働環境が過酷になったと農家さんもたまに選果場に入ってくるんですけども、「暑いわ」と「仕事にならんわ」というような形で入ってくるのが一番身近に感じることでして、やっぱりまたミカンについても いろいろ障害が出てきてまして、収量が取りにくくなっているというところもありますし、また着色が遅れるというところでして、収穫時期がちょっとなかなか定まらないというようなところで、いろいろそういうところで苦勞、農家さんの中では苦勞しているというところですね。

Q5. 平野様が選果場の場長になられるまでのステップについて、教えてください。

一生懸命仕事をしてきたら知らぬ間になってしまったというところなので、僕もここ就職し始めてすぐこの選果場に配属になってですね、その中で現場を管理しながらいろいろそういう仕事を経て順番的になったというところでして、そういう専門的に育ててもらったというところで場長にならせてもらったってところですね。

また、その過程の中で転機になった出来事がありますか。

そうですね、僕やっぱり初年度が一番転機といいますか、入ってすぐ大変だったんで、色々な失敗をしましたね、これじゃ 2 年目はあかんなというところで、心を入れ替えるといいますか、もうちょっと反省点を出してですね、そこからもう二度とああいう年にならないようにというところで今も続けているというところですね。

Q6. 選果場で働く中で、特にやりがいを感じる瞬間や“この仕事をしていて良かった”と思う時はどんなときでしょうか。

やはり農家の方からですね、「儲かったよ」とか、「ええみかん出来たよ」と言ってくれるのが第一にやりがいがあることかなと。また消費者の方からそういうおいしかったよという声がたまに電話でとかいただくこともありまして、そういう時は嬉しかったですね。

やっぱり農家さんとの関わりってというのがかなり密な関わりですか。

そうですね、やっぱりよく選果場に来られる方については、一杯飲みに行くかとか、家族じゃないですけど、家族に近いような感じの方もいます。

いい関係ですよ。ありがとうございます。

Q7. 選果場にはどのような仕事内容があり、どのように分担されていますか。

自分は販売担当であって、指導員という職種もありますし、まだ現場の選果機を動かす係もいますし、それを回すに当たっての作業員の段取りであったりとか、そういう係があります。また、売り上げたみかんの売上金を間違いのないように農家さんに分配するという生産事務ということが主な仕事ですね。

Q8. 仕事をする上で成長していく人にはどのような特徴がありますか。

そうですね、言われたことをそのままするというのではなくてですね、自分で考えて仕事をしてくれる方がやはり成長が早いかなというふうに自分は思いますね。

平野様はどのようなことを業務以外にも自分なりに考えて仕事をしてきましたか。

やっぱり農協の職員としては農家さんのためということを第一に、やっぱり大元はそこにありますので、そこを考えながら仕事をどういうふうにすれば農家さんに還元できるかっていうことを考えながらやってるっていうことですかね。

Q9. 現場の雰囲気はどんな感じですか？

僕の部下も若い子が多いというところで、活気がある職場なのかな、というところはあります。また、そういう意味で若い子であればちょっと不安なところもあるんですけども、再雇用の元上司の方もいてですね、その中でいろんなところを締めてもらいながら、そういうところでバランスのとれたいい職場なのかなと思っております。

現場ではどんな方が多いですか。

みかんの指導員だったらスペシャリストですし、選果機する人はメカニックに機械に強いという方で、他の職場、事業所と違って、やっぱりそういう担当が線引きと言いますか、ちゃんと仕事が決まっているスペシャリストが多いっていうことですかね。

Q10. 場長として現場をまとめる上で、最も大切にしていることはなんですか。

やっぱりパワハラという部分があるので、自分の意見を押し付けないということ意識しながら、相手の意見、みんなの意見を聞くということを意識しながら仕事をしているということですかね。

自分の意見を伝えた上で、周りの意見も聞く時に、自分の意見が伝わりにくいと感じる際にはどのような工夫をされていますか。

やはり丁寧に説明するっていうことが、もうそれに尽きるのかなというところで、言葉に表現しにくい部分があるんですけども、実際に仕事をしながらというところで、説得というか、そこは相談しながらやってるっていうことですかね。

Q11. 若手職員の育成や教育で特に意識していることはありますか。

やっぱり自分で考えて仕事をしてほしいなというところがありますので、基本的には一通りの業務については説明するんですけども、とりあえずやらせてみるというところで、ちょっと説明して、あとは自分のやり方を考えてやってみなさいというところをやっているというところですね。

同じ業務でも、やはり自分のやり方っていうのが人それぞれ持っているものなんですか。

そうですね、やはりやり方は決まっているものもあるんですけども、そこはやっぱり違いますね。個人のやり方、自分のやりやすい方法、それが一番の効率なのかなというところもありますし、そういうところを意識しながらしてますね。

Q12. 地元や生産者とのかかわりの中での印象的なエピソードがあれば教えてください。

日頃仕事しているとやっぱり選果場にちょっとぶらっと来てくれるんですけど、声かけてくれたりですね、いろんな差し入れをもらったり、農家さんに助けてもらっているというようなところで、家族のように思ってくれているのかなというところで、そういうところがエピソードですかね。

Q13. 苦労した経験やトラブル対応を、どのように乗り越えましたか。

そうですね、ちょっと話しづらい話、ちょっと選果場内でちょっと事故があつたりとか、怪我することがちょっと数年前に重なったことがあります。で、そういうことが二度と起こらないような対策をやったり職場として安全な職場づくりというところでは取り組まなアカンというところがありましたので、そこはちょっと全員で考えて、それをすると効率が落ちるとか、そこらのバランスも考えながら、みんなで一生懸命考えて対策をしたというところですかね。

Q14. 作業に新しい機械やテクノロジーが導入されていることはありますか、またそれによって変化したことがあれば教えてください。

そうですね、基本的にはみかんの選別に関しては、ほぼほぼ機械です。機械はその特殊な光のセンサーを当てまして、みかんを食べなくても味がわかるというところで導入しているというところで、そういう意味では消費者にとっては、おいしいみかんを簡単に選べる時代なんかなというところですね。

そういう意味では年々、まだ 10 年ぐらい前に機械更新したんですけども、処理能力が上がってますね、選果時間も短縮ということで、働き方もちょっとずつ変わってるというところですね。また将来的には今は最新の機械で AI 選果機といって、みかんその写真の撮りながらなんですけども、どういう被害があるものかとか、そういうところで判別できるような機械が今開発されてまして、将来的にはそういうところも導入しながら、農家さんの負担を減らすというところで、家庭選別も今もやってるんですけども、そういうところも軽減できると、この機械も将来的には導入できればなというところですね。

Q15. 学生時代にしておくべき経験のアドバイスなど、農業や JA に興味のある学生へメッセージをお願いします。

先入観を持たず 何でもやってみるってことが大事なのかなと思いますので、JA に勤めたいというのがあれば、やっぱり農業に関わりたいたいという方にとって、やっぱり JA というのが一番の職場かなと思いますし、JA はやっぱりいろんな事業を行ってまして、望めばいろんなところで移動して、そういう職業を体験できる、経験ができるというのは、他の企業にはない部分かなと思います。